

病害虫発生予察情報予報第8号(11月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
オオムギ	網斑病	並	 オオムギ網斑病
コムギ	シロトビムシ類	並	
	1. シロトビムシ類 常発圃場では、種子への薬剤の塗抹処理や粉衣処理を行い、防除を徹底する。		
麦類全般	1. 種子伝染性病害(オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病等) 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。		
大豆	1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。		
タマネギ	べと病	並	 ネギアザミウマ
	ボトリチス葉枯症	並	
	ネギアザミウマ	やや多	
	1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する。 2. 乾腐病 前年に発生した圃場など、発生の恐れがある本圃に植え付ける場合、地床育苗の苗は定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。 3. ネギアザミウマ 本虫を本圃へ持ち込まないよう、苗床での防除を徹底する。		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類
	うどんこ病	並	
	アブラムシ類	やや少	
	1. 立枯症(炭疽病) 炭疽病による葉の汚斑型病斑、葉柄の黒色の陥没した病斑がみられる株や立枯れ株は、他の株への伝染源となるので早急に除去し、圃場外に持ち出し適切に処分する。 2. コナジラミ類 発生が増加している。今後、株が繁茂してくると本虫が寄生する葉裏へ薬液が到達しづらくなるため、初期の防除を徹底する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キュウリ	べと病	やや少	 退緑黄化病
	うどんこ病	やや少	
	褐斑病	並	
	アザミウマ類	やや多	
	コナジラミ類	やや多	
1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 コナジラミ類の発生が多い。ウイルス病罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植替え時は、次作での発生を防ぐため、キルパーを用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、18日以上（地温15℃の場合）空けてから定植する。			
トマト	コナジラミ類	並	 タバココナジラミ
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 複数の圃場でコナジラミ類が確認されており、一部では多い。今後のコナジラミ類の多発とウイルス病の発生を防止するため、侵入防止対策と初期からの防除を徹底する。ウイルス病罹病株を認めた場合は、早期に除去し、適切に処分する。		
キャベツ	菌核病	並	 チョウ目害虫 食害
	黒腐病	並	
	アブラムシ類	やや多	
1. 菌核病 冬春どりキャベツにおける本病の主な防除適期は、土壌中の菌核からの子のう盤の形成が増加する11～12月頃と推定されることから、この時期の予防散布を徹底する。			
野菜共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	やや多	 シロイチモジヨトウ
	シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺が引き続き平年より多い。圃場毎の発生状況を確認し、若齢期の防除を徹底する。本虫に対するクロラントラニリプロール水和剤の効果は高くないため、薬剤の選定にあたっては留意する。		
キク	白さび病	並	 チョウ目害虫によるキクの被害
	アザミウマ類	やや多	
	アブラムシ類	多	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	多	
	チョウ目害虫	多	
1. チョウ目害虫 一部の圃場で発生が多い。幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。			

- 注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。
- 注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。
- 注3) 防除対策については「佐賀県病害虫防除のてびき」も参照してください。
 佐賀県病害虫防除のてびき掲載アドレス
<https://www.pref.saga.lg.jp/kijji00321928/index.html>

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（2ページの注釈にリンク有り）。

写真

- 1～3ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 4ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する11月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和5年10月19日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における11月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (13.3℃)	50	高い
降水量	30	40 (89.4 mm)	30	並

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

[【概要に戻る】](#)

1. 網斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 前年の発生状況（令和5年4月調査）

令和5年産の大麦における網斑病の発生は、平年並であった。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 16 育苗圃場

調査日：10月17日～19日



定期調査圃場(育苗床)の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

(11月に発病することはまれだが、育苗あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（育苗）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並〈±〉

(2) 圃場の菌密度（本圃）

前年の発生株率・発生圃場率はともに高く、本圃の菌密度は高いと推察される。〈±～+〉（図2参照）

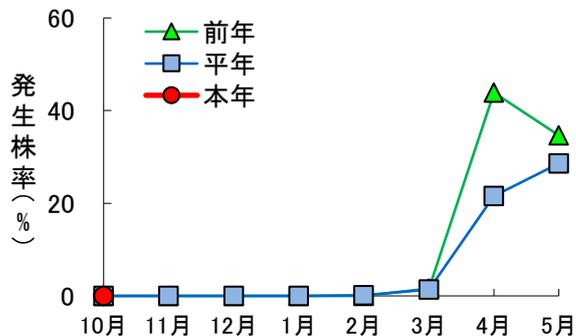


図1 タマネギでのべと病の発生推移

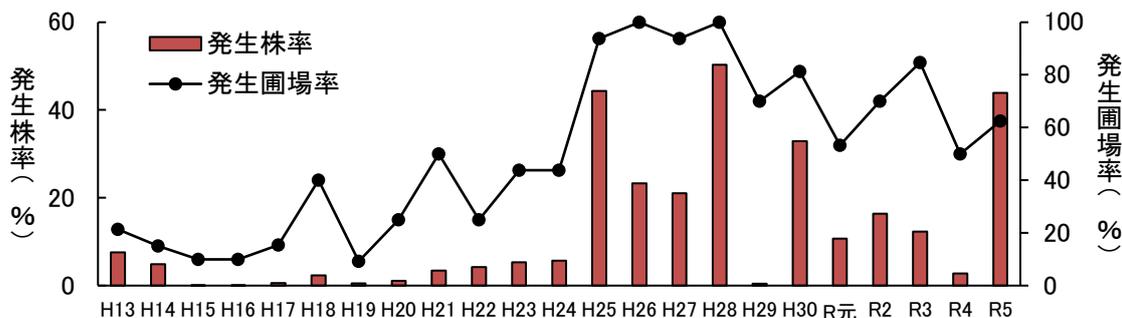


図2 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移（4月下旬の定期調査結果）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 11月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から予防防除を行う。

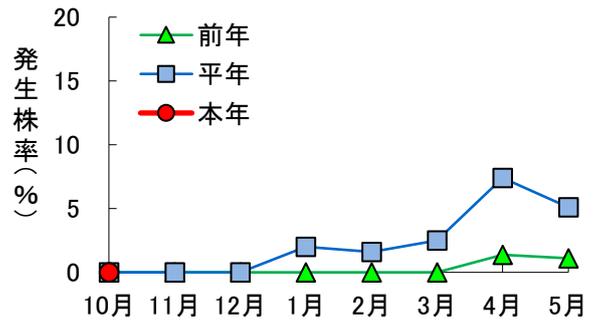


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.2%、前年0.8%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 11月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

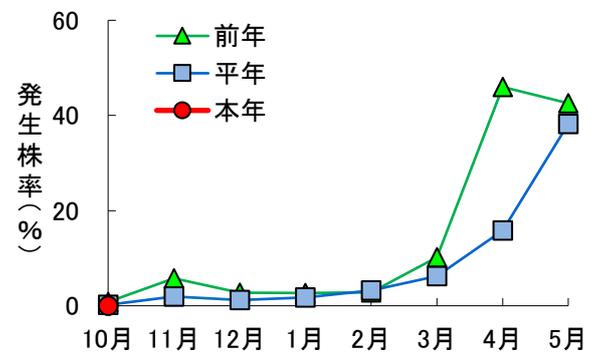


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ (本圃)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：10月16~20日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：6.3% (平年 7.4%、前年 9.0%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) 天敵を利用する圃場では、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵(カブリダニ類)を放飼する。

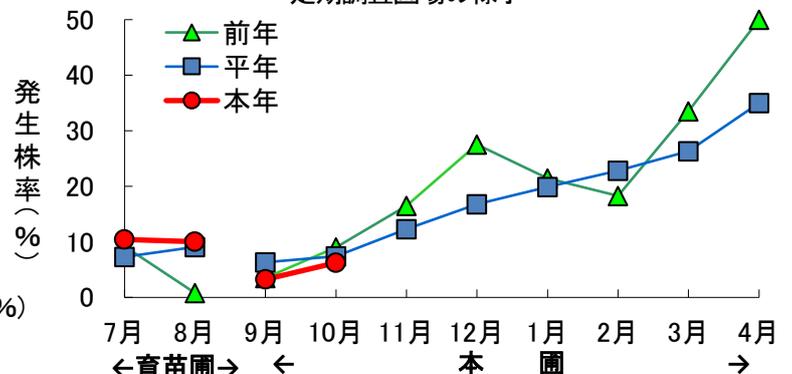


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年 5.1%、前年 0%)

平年比：並 (±)

(2) 11月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 定期的に10～14日間隔の薬剤防除を実施する。

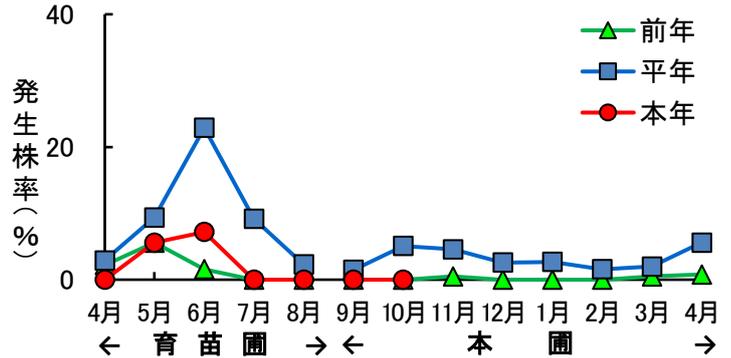


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場

調査日：10月18日～21日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：1.9% (平年12.5%、前年12.2%)

平年比：やや少 (一～±)

(2) 11月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

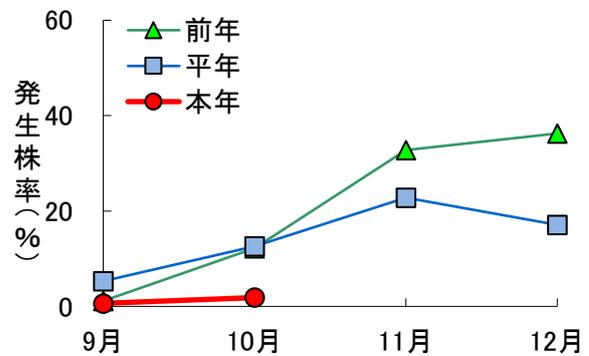


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：10.6% (平年 5.2%、前年 5.6%)

平年比：やや多 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

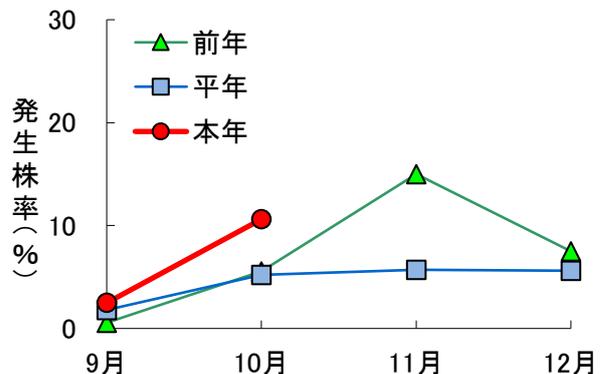


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：33.1%（平年19.1%、前年40.6%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

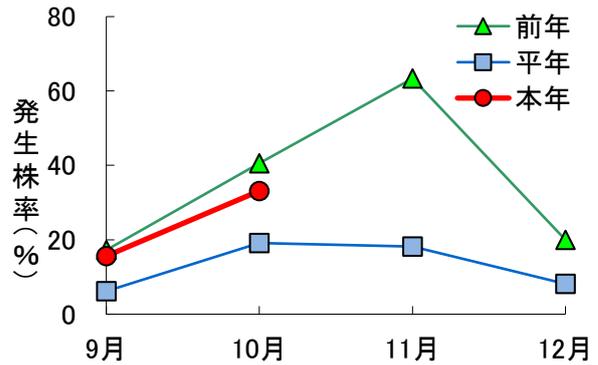


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：4圃場、防除員4圃場

調査日：10月16～19日



定期調査圃場の様子

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：6.9%（平年7.0%、前年8.3%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

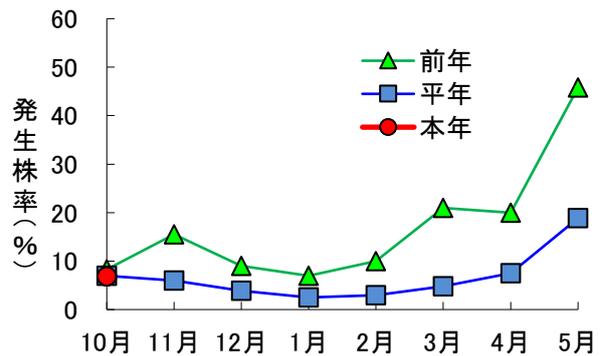


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査8圃場

調査日：10月18～21日



定期調査圃場の様子

1. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.8%、前年1.3%）

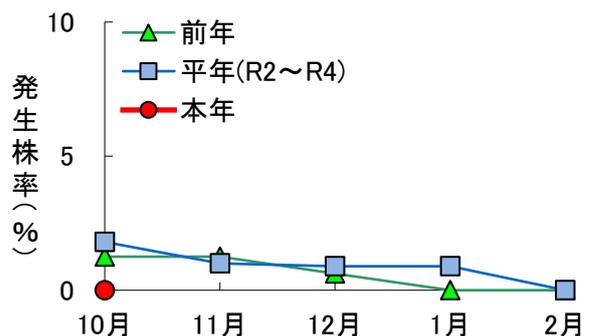


図1 キャベツでのアブラムシ類の発生推移

平年比：やや少（-～±）

(2) 11月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発してからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、低密度時からの防除を行う。

野菜共通

[【概要に戻る】](#)

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1～2 参照）

作物名	食害株率(%)	平年比	平年値(%)	前年値(%)
イチゴ	6.8	並（±）	9.3	5.8
キャベツ	44.4	並（±）	51.3	34.4

② フェロモントラップによるハスモンヨトウの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図3）（±）

③ フェロモントラップによるオオタバコガの10月の誘殺数は、平年よりやや少なく推移している（図4）（-～±）（±）

④ フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、平年より多く推移している（図5）（+）

(2) 11月の気象予報

気温は高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

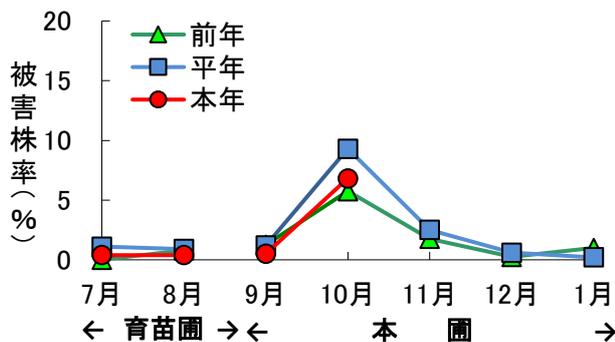


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

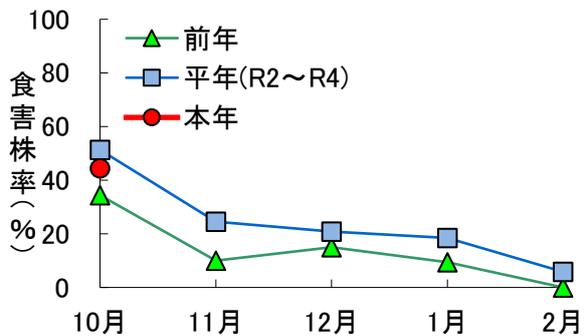


図2 チョウ目害虫によるキャベツの被害株率の推移

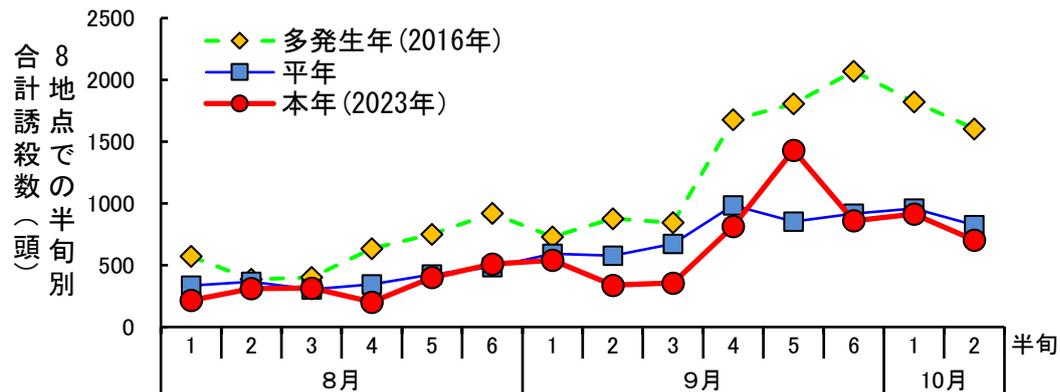


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数）

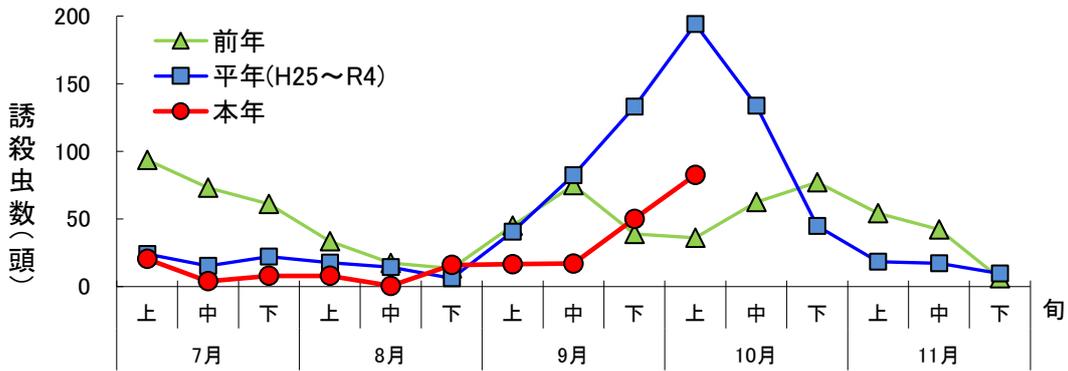


図4 フェロモントラップによるオオタバガの誘殺数
(川副町2地点の平均: 病虫害防除員1地点、農業試験研究センター1地点)

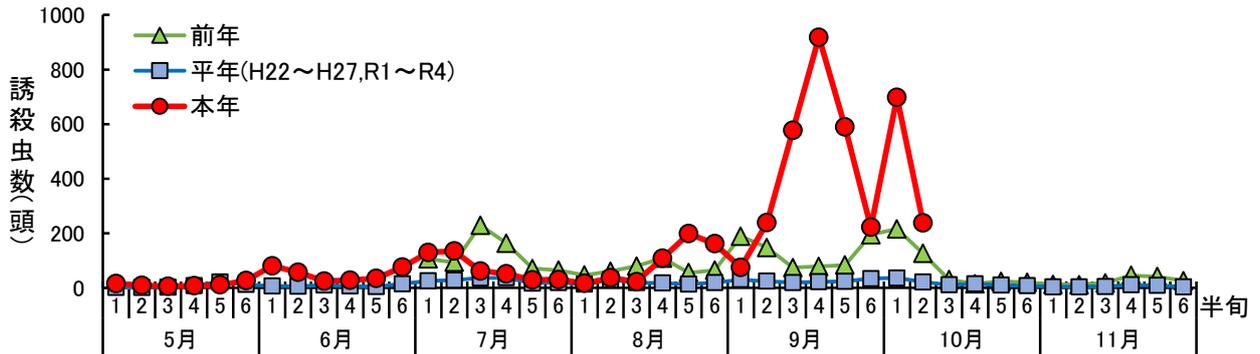


図5 フェロモントラップによるシロイモジトクの半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場
調査日：10月17～18日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)
平年比：並 (±)

(2) 11月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。

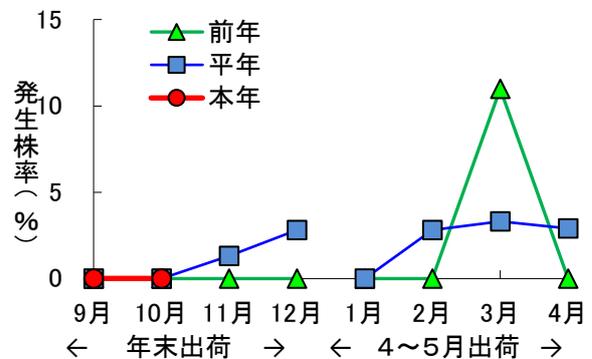


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナ

キロアザミウマ、ミカンキロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：9.3% (平年 6.4%、前年 2.0%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- (2) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。本虫は、薬液の到達しにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。
- (3) ミカンキロアザミウマは、キクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) のウイルスを媒介する。これらウイルス病の発生を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫に対する防除を徹底する。

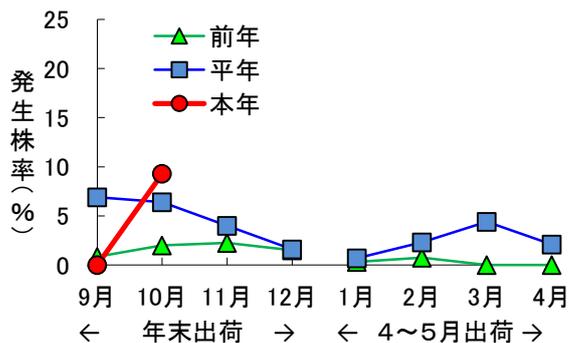


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：8.3% (平年 3.1%、前年 0.8%)

平年比：多 (+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

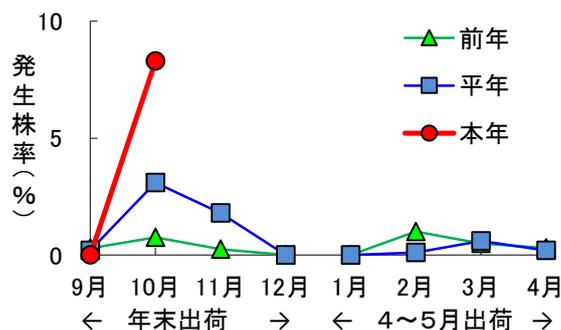


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率：1.0% (平年 8.6%、前年 12.8%)

平年比：やや少 (-~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

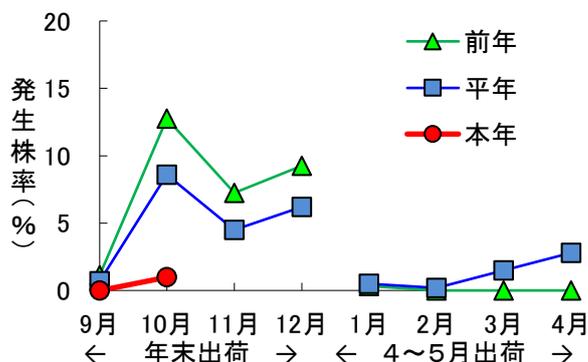


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

5. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率：0.3% (平年0%、前年0.3%)

平年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下葉にも薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

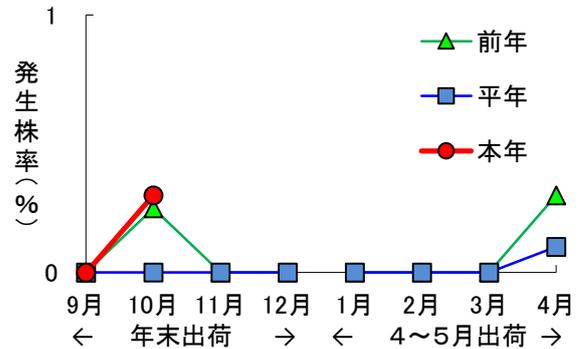


図1 ハモグリバエ類のキュウでの被害株率の推移

6. チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率：6.0% (平年1.0%、前年0.3%)

平年比：多<+>

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜共通の項参照

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種によって薬剤の効果が異なるため、発生状況を確認し、薬剤を選択する。なお、薬剤防除に当たっては、使用方法(収穫前日数等)を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (2) その他については特記事項を参照する。

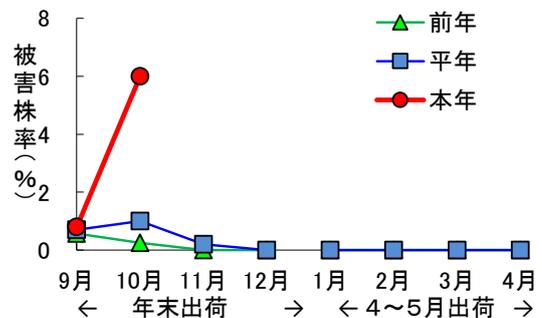


図1 チョウ目害虫によるキュウでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

